

教育研究業績書

2018年11月08日

所属：看護学科

資格：助教

氏名：荒木 大治

研究分野	研究内容のキーワード
看護学	老年看護学, 慢性病看護学, 臨床統計学, 医療経済学
学位	最終学歴
博士 (医学)	神戸大学大学院 医学系研究科 医科学専攻

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 老年看護学実習における学生指導の工夫	2017年～現在	<p>老年看護学実習 I (2週間/1クール)</p> <p>地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、の実習においては、センターの概要に加え、地域の高齢者が介護保険やその他の社会資源をいかに活用して生活しているかの実態を見せることによって、イメージをつけられるよう指導者と協力して支援した。</p> <p>介護老人福祉施設における実習指導では、認知症やその他の疾患にて要介護状態にある利用者と直接かかわることで、終の住処で生活する利用者と支援する看護師の役割を見せた。また学生にはレクリエーションの実施を通して、施設で生活をする要介護高齢者の理解や援助方法について学びを深めさせた。これを実現するために、指導者と綿密に連携を図った。</p>
2. 老年看護学の授業の工夫	2016年～現在	<p>老年看護学 I (2/15コマ担当)</p> <p>脳梗塞・パーキンソン病、心不全</p> <p>老年期における看護の対象者として多い、脳梗塞・パーキンソン病、心不全について、病態生理から、治療、検査、看護実践へと学生の理解が深まるように教授した。また病態の理解の難しい脳梗塞やパーキンソン病については、視聴覚教材を用いて、理解促進に努めた。</p>
3. 老年看護学の演習の工夫	2016年～現在	<p>高齢者疑似体験演習</p> <p>高齢者の理解を促すために、シニアポーズはおいたろう等のシミュレータを使用し、白内障による見えづらさ、難聴に聴こえにくさ、円背や筋力低下による歩きにくさ、指先の細かい動きの難しさを体験させる演習を主担当した。よくある日常生活場面を設定し学生に体験させた。また学生を高齢者役と介助者役にわけ、高齢者側からだけでなく介助者の視点からも客観的に見られるよう計画した。</p> <p>老年看護過程の講義・演習</p> <p>脳梗塞患者の看護過程について講義した。先に教授した脳梗塞の疾患や看護の講義を礎とし、そこから出てくる高齢者の生活上の具体的な問題点について考えさせるような工夫をした。また理解の難しい半側空間無視については、視聴覚教材を使用し、症状と援助方法のイメージがつくようにした。</p> <p>老年看護過程の演習 (計5回) を担当した。演習は実習と同じくグループワークの形態をとらせ、学生グループが自ら考え進められるよう補助を行った。事例は高齢者によく見られる脳梗塞後の事例とした。</p>
4. 統計学の授業の工夫 (科目名：看護統計法)	2015年～現在	<p>看護統計法 (12/15コマ担当)</p> <p>大学院修士課程1年次生を対象に、看護研究に必要な基本的な統計理論や解析方法の講義、および統計解析ソフトを使用した演習を行った</p> <p>データの種類 データの代表値やばらつきを表す指標 グラフの種類と表記方法 母集団と標本 サンプルング 正規分布の性質 中心極限定理 仮説検定の仕組み p値 有意水準 t検定 ノンパラメトリック検定 カイ2乗検定 分散分析</p> <p>各検定におけるSPSSを用いたコンピュータ演習</p> <p>統計学の講義においては、抽象概念を理解させるために例を多く出し、考え方を学ばせるように工夫を行った。例は看護師の馴染み深いものを用いた。授業用スライドでは、紙面の参考書では理解し難いグラフ等が変化する様子をアニメーションで示して、イメージをつかみやすいよう努めた。演習においては、表面上のテクニカルスキルを習得するだけでは意味をもたないため、入力するデータの特徴、各分析方法にて使用した検定の意味、検定の仕組み自体を理解させることに重きをおいた。検定の問題演習では、手計算と統計解析ソフトと両者の方法で分析を行い解答が一致することを確認させた。</p>
5. 臨床の看護師を対象としたe-learningを用いた看護講座の運営	2012年～現在	<p>科研A「リラクゼーション法指導者養成教育プログラムの構築と評価」にて、臨床の看護師を対象として、リラクゼーション法を学ぶための学習支援に、moodleによるe-l</p>

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		earningとテレビ会議システム(群馬・新潟・長野・京都)を活用し指導している。moodle上で、教材の視聴・レポートの提出・メッセージの授受等が可能。テレビ会議システムの管理、講座運営に関わる受講生の管理・指導を行っている。
2 作成した教科書、教材		
1. 老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱの講義に関して	2016年～現在	武庫川女子大学看護学部の講義において、教科書を補完するためのレジメや資料の作成
2. 老年看護学の演習に関して	2016年～現在	武庫川女子大学看護学部の老年看護学演習(高齢者体験、老年看護過程)においての資料作成
3. 老年看護学実習に関して	2016年～現在	武庫川女子大学看護学部の老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱの実習要項の作成
4. 「アセスメントに使える疾患と看護の知識」の脳梗塞を著作	2016年	看護学生に対する学習教材として、脳梗塞看護における病態理解に必要な脳の解剖生理、看護ケアに生かせる脳梗塞の基礎知識をまとめた。
5. 看護統計法の講義・演習に関して	2015年～現在	武庫川女子大学大学院の講義にて、統計学の基礎知識から統計解析ソフトの演習に至るまでのオリジナルの資料、スライド、問題等の作成。
6. 兵庫県ナースセンター再就業支援研修会について	2015年～現在	ヘルスアセスメント技術(脳神経系のアセスメント、腸蠕動音のアセスメント)の講義資料、事例に基づくアセスメント演習(高齢者の誤嚥性肺炎と脱水)の事例作成。
7. 専門学校公衆衛生学の講義に関して	2005年～2016年	神戸看護専門学校や大阪医療センター附属看護学校等にて、学校指定の教科書を補完するための、レジメ・資料の作成
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 兵庫県立宝塚高等学校 特別授業「看護とケア」特別非常勤講師	2017年4月～2017年12月	看護師の仕事に興味を持ち将来進学を考えている生徒に対して、より深く看護学を学びたいと思えるような演習重視の講義を行った。 全40コマ中7コマ(看護を知ろう、看護とナイチンゲール、絵本から学ぶ共感と傾聴、高齢者を理解しよう、高齢者体験、看護におけるリラクゼーション、看護はサイコー)担当。
2. 武庫川女子大学情報教育研究センター ICTニュース 出演	2015年8月	フィジカルアセスメントのシミュレータ SimMan3Gの紹介と、教育や社会貢献事業への活用について、インタビュー形式の動画にて説明した。
3. 兵庫県ナースセンター再就業支援研修会 講師	2014年9月～現在	未就業看護師が再就業するにあたって、基礎的なヘルスアセスメント技術の講義・演習や、シミュレータを用いた事例に基づくアセスメント演習(高齢者の誤嚥性肺炎と脱水の事例)の計画、実施を行った。
4. 国立病院機構 大阪医療センター附属看護学校 非常勤講師	2006年4月～2017年3月	公衆衛生学を分担し、国家試験の合格率向上に寄与した。 6コマ(人口統計・母子保健・老人保健・産業保健・環境保健・感染症)担当
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 消化器内視鏡技師資格	2008年	
2. 保健師免許	2004年	
3. 看護師免許	2003年	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 脳梗塞(アセスメントに使える疾患と看護の知識)	単	2016年1月	照林社	看護学生に対する学習教材として、脳梗塞看護に必要な知識をまとめた。病態理解に必要な脳の解剖生理、看護ケアに生かせる脳梗塞の基礎知識等。pp. 63-72
2 学位論文				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
<p>1. The Augmented Representation of the Cost-effectiveness Acceptability Curve for Economic Evaluation of Health Technology (医療技術の経済評価における費用対効果受容曲線の拡張表現)</p>	単	2015年3月	神戸大学大学院医学系研究科	<p>1999年にイギリスの医療技術評価組織である英国国立医療技術評価機構(NICE)が設立されて以来、医療技術評価は、ヘルスケアサイエンスにおける価値に基づく政策決定のための主要な焦点の一つとなっている。NICEの医療経済学ガイドラインによる費用対効果受容曲線(CEAC)の推奨により、CEACは世界標準の重要な評価方法となった。国際医療経済・アウトカム研究学会(ISPOR)の用語集によれば、「CEACは医学的効果を1単位追加するための限界支払意思額の関数として、ある治療が他の治療よりも費用対効果が優れている確率を明示したものである。CEACは2種類の治療間における費用対効果の比較を図式的に表現する」とされる。</p> <p>しかしながら、一部の専門家はCEACによる表現の限界と落とし穴についての問題を提起している。例えば、Fenwickらは、CEACの曲線構造は費用-効果平面上での費用と効果の分布の範囲によって、さまざまに異なる形状となるため、その確率のもつ意味合いについて誤解を招きやすい可能性を指摘し、現行のCEACがそのような問題に対応できないことを警告している。</p> <p>従って我々の研究では、現行のCEACでは表現されていない次のような課題に対応できる新たな手法の開発に取り組んだ。すなわち、</p> <p>1) 費用対効果が優れる場合、それを実現する確率的な条件の違いがCEAC上でどのように区別して表現できるか。</p> <p>2) 支払意思額の閾値λとの関連において、現行のCEACに表現されていない確率値の95%信頼区間を付記した新たなCEACを描くことができるか。</p> <p>本論文では、これらの課題への解答となる方法を案出するとともに、コンピュータシミュレーションを行い、仮想的に生成されたICERの分布例に基づいてそれらの方法の有用性を検証した。</p>
3 学術論文				
<p>1. The Augmented Representation of the Cost-effectiveness Acceptability Curve for Economic Evaluation of Health Technology (医療技術の経済評価における費用対効果受容曲線の拡張表現)</p> <p>(査読付き)</p>	共	2015年1月	Kobe Journal of Medical Sciences 61巻・1号, p.E9-E18 http://www.med.kobe-u.ac.jp/journal/contents.html	<p>New schemes on the cost-effectiveness acceptability curve (CEAC) were developed, which can make the CEAC augmented to be more informative regarding the types of acceptance and statistical inference. Theoretical approaches have been undertaken to address two questions: 1) how the area under the curve (AUC) can be zoned by different types of acceptance displayed on the incremental cost-effectiveness plane, and 2) how the accepted dataset of incremental cost-effectiveness ratios (ICERs), which are generated by simulation runs, can be statistically associated with a threshold of ICER for acceptance. To address the first question, the AUC of a typically sigmoid-shaped CEAC was divided into three zones according to the three segmentations of the scattered plots accepted at South-east, North-east and South-west quadrants on the incremental cost-effectiveness plane. A solution for the second question was "a new CEAC of the mean" (mCEAC), which is defined by plotting a pair of the mean and its occurrence probability of ICER accepted at North-east quadrant on the incremental cost-effectiveness plane. All those schemes were graphically illustrated based on hypothetical examples using the bootstrapping simulation. Our new schemes on CEAC will provide decision makers with useful information on cost-effectiveness assessment beyond the standard presentation of CEAC.</p> <p>共著者名: Daiji ARAKI, Isao Kamae.</p>
<p>2. The Direction of Research on Active Aging and Healthy Life Expectancy in Japan (日本におけるアクティブエイジングと健康寿命研究の方向性) (査読付き)</p>	共	2014年5月	Open Journal of Nursing, http://www.scirp.org/journal/ojn/	<p>日本では、2025年には団塊の世代と呼ばれる全国民の18.1%の人口が後期高齢者となるため、それを支える基盤づくりが必要である。そこで、本研究ではアクティブエイジングという側面から文献検索を行い、日本における取り組みや研究の動向を明確化し、次の研究課題を検討することを目的とした。「アクティブエイジング」と「健康寿命」の検索結果を合わせて、原著120件、総説・解説・特集213件をそれぞれ分析対象とし、全ての論文のabstractについて、テキストマイニングの手法を用いて分析を行った。その結果、原著論文からは【保健統計】、【性別】、【年齢】、【疾患】等の8カテゴリが抽出された。総説・解説・特集からは【方向性】、【疾患】、【生活】等の16カテゴリが抽出された。いずれに</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
3. 看護実践の視点からみた森林浴がもたらす効果（査読付き）	共	2012年9月	明治国際医療大学誌, 第7号, p. 21-34	<p>においても【看護】というカテゴリは抽出されなかった。原著論文で取り扱われている疾患は、脳血管疾患と骨粗鬆症であり、これは寝たきりやQOLの低下につながりやすいことから、「アクティブエイジング」、「健康寿命」という側面では研究が多いことが考えられた。総説・解説・特集からは、疾患としては生活習慣病と更年期が抽出された。原著論文とのカテゴリの違いは、日本の研究者が国内で原著として発表せずに国外で発表している可能性が考えられた。今回の研究を行うことで、日本においては「アクティブエイジング」という用語を用いた研究がほとんど行われていないことが明らかとなった。2025年を迎えるためには、更に「アクティブエイジング」、「健康寿命」という視点での研究数を増やしていく必要があると考えられた。</p> <p>本人担当部分：研究計画、データ収集、データ分析を担当。（担当頁特定不可能）</p> <p>共著者名：徳重あつ子、荒木大治、鈴木みゆき、岩崎幸恵、小澤みずほ</p> <p>本研究の目的は、森林浴の効果について、生理学的指標および会話内容の分析から検証することである。研究対象は、本学部教員。12名のうち60代女性が3人、最頻値は40代であった。府民の森ひよしの森林浴散策コースでは、2人1組で、体育館では1人で各30分程度歩行した。森林浴前・中・後の唾液アミラーゼ値、気分プロフィール尺度の変化、心拍変動の計測・解析による自律神経系の変動を評価した。また、森林浴中のペアの会話を録音して、その逐語録を作成して内容をエピソード毎に分類し、心拍変動解析結果と対応させて、森林浴中の会話について、発話思考法を用いて分析した。その結果、以下の3点が示唆された。1. 森林浴中および直後に副交感神経系が優位な傾向を示し、活気が上昇した傾向より、ペアで行う森林浴でリラクゼーション効果が期待できる。2. 会話内容からの結果では、自分が感じていることを相手に伝えること、そして、そこから次に何かを連想し、楽しむことができると、ペアで実施することで森林浴の効果をより高める可能性がある。3. 森林浴を看護介入として取り入れる際には、実施する時期や場所、時間帯はもちろんのこと、介入のタイミングや会話の進め方を十分考慮する必要がある。</p> <p>本人担当部分：はじめにと森林浴の文献レビューを分担した。森林浴に関する和文・英文の文献検討を行った。</p> <p>共著者名：田口豊恵、矢野恵子、西山ゆかり、井村弥生、夏山洋子、中森美季、林朱美、松川泰子、北村雄児、荒木大治、山本明弘、寺谷倫利子、山田皓子</p>
4. Psychosomatic effects of healing music in comparison with noise: from changes in α brain waves, systolic blood pressure and pulse rate, and multiple mood as biological indicators. (ヒーリングミュージックが心理・整理に及ぼす影響に関する研究—多面的感情状態、脳波 α 波、血圧と脈拍数を指標として—) (査読付き)	共	2004年7月	Japanese Journal of Health and Human Ecology. 70巻・4号, p. 134-145	<p>20歳代の大学生22名を対象に、音楽の与える心理的指標と身体・生理学的指標の両者に注目し実験研究を行った。医療現場で発生するノイズとヒーリングミュージックを聴取させ、脳波α波、心拍毎の収縮期血圧値（sBP）と脈拍数の測定、及びMMS（多面的感情状態尺度）短縮版アンケートを行った。sBPと脈拍数に有意差は認められなかったが、MMS短縮版、脳波α波の両者では、ヒーリングミュージックがストレスを有意に軽減した。よって、ノイズの暴露を受けている者に対しヒーリングミュージックを聴取させることは、心理的、身体・生理学的にもストレスの緩和に有用性があると示唆された。</p> <p>本人担当部分：元となる学術論文の、研究デザイン、研究計画、実験（身体・生理学的指標）、分析（身体・生理学的指標）を担当した。</p> <p>共著者名：Naohiro HOHASHI, Daiji ARAKI, Hisato NAKAMAE, Naoki MOTODA.</p>
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年6月	第29回日本看護福祉学会 学術大会 実行委員
2. 2016年5月	HTAi 2016 Annual Meeteng Volunteer Stuff
3. 2013年4月～2014年8月	第35回国際ヒューマンケアリング学会／トランス文化看護とケアリング分科会 実行委員
4. 2013年4月～2014年1月	第11回日本生殖看護学会 学術集会 運営実行委員
5. 2010年12月～2011年8月	日本家族看護学会 第18回学術集会 実行委員
6. 2006年4月～2007年3月	ISPOR日本部会 第1回学術集会 実行委員
7. 2003年4月～2004年3月	ISPOR 第1回アジア・太平洋会議 実行委員